

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載
 【部門区分】第3部門第3区分
 【発行日】平成19年7月19日(2007.7.19)

【公開番号】特開2000-351832(P2000-351832A)
 【公開日】平成12年12月19日(2000.12.19)
 【出願番号】特願2000-171864(P2000-171864)
 【国際特許分類】

C 0 8 G 59/66 (2006.01)

【F I】

C 0 8 G 59/66

【手続補正書】
 【提出日】平成19年5月31日(2007.5.31)
 【手続補正1】
 【補正対象書類名】明細書
 【補正対象項目名】特許請求の範囲
 【補正方法】変更
 【補正の内容】
 【特許請求の範囲】

【請求項1】 少なくとも1つのメルカプタン硬化剤と、少なくとも1つの $C_8 \sim C_{24}$ カルボン酸金属塩とを含むことを特徴とするエポキシ樹脂用硬化剤組成物。

【請求項2】 さらに、少なくとも1つのアミド樹脂硬化剤を含む請求項1記載の組成物。

【請求項3】 さらに、少なくとも1つのアミノ樹脂硬化剤を含む請求項1記載の組成物。

【請求項4】 前記カルボン酸金属塩として、リシノール酸亜鉛を含む請求項1～3のいずれかに記載の組成物。

【請求項5】 高光沢のエポキシ樹脂塗膜を形成する方法において、
 少なくとも1つのエポキシ樹脂を含む成分Aと、少なくとも1つのメルカプタン硬化剤および少なくとも1つの $C_8 \sim C_{24}$ カルボン酸金属塩とを接触させ、所望により、他の添加剤の混和後に、混合物を均一にして、触媒添加樹脂を形成し、次いでこの触媒添加樹脂を架橋硬化させることを特徴とする方法。

【請求項6】 前記硬化は、温度5～50 で実施する請求項5記載の方法。

【請求項7】 前記硬化は、少なくとも1つのアミノ樹脂硬化剤および/またはアミド樹脂硬化剤の存在下に実施する請求項5または6記載の方法。

【請求項8】 前記カルボン酸金属塩として、リシノール酸亜鉛を用いる請求項5～7のいずれかに記載の方法。